

■著者紹介

内田 博文（うちだ・ひろふみ）

1946年生．京都大学大学院法学研究科修士課程修了

現在，神戸学院大学大学院実務法学研究科教授／九州大学名誉教授

〔主要業績〕

『刑法学における歴史研究の意義と方法』（九州大学出版会，1997年）

『ハンセン病 検証会議の記録』（明石書店，2006年）

『求められる人権救済法制の論点』（解放出版社，2006年）

『日本刑法学の歩みと課題』（日本評論社，2008年）

『刑事判例の史的展開』（法律文化社，2013年）

『自白調書の信用性』（法律文化社，2013年）

『刑法各論講義〔第4版〕』（有斐閣，2010年／共著）

『福岡事件』（現代人文社，2012年／単編）

『転落自白』（日本評論社，2012年／共編）

『市民と刑事法〔第3版〕』（日本評論社，2012年／共編）

『歴史に学ぶ刑事訴訟法』（法律文化社，2013年／単編）

『現代刑法入門〔第3版補訂〕』（有斐閣，2014年／共著）